

監査公表第10号（平成23年11月25日、県公報第3332号）  
県土整備部・建築都市部出先機関定期監査結果（平成23年度）

第1 監査の概要

1 監査対象機関、監査対象期間及び監査実施期間

- (1) 監査対象機関：県土整備部及び建築都市部の出先機関15機関
- (2) 監査対象期間：平成22年度
- (3) 監査実施期間：平成23年5月31日～平成23年7月13日  
監査対象機関ごとの監査実施日は、次のとおりである。

監査対象機関名	監査実施日
福岡県土整備事務所	平成23年7月4日～平成23年7月7日
久留米県土整備事務所	平成23年6月14日～平成23年6月16日
南筑後県土整備事務所	平成23年6月6日～平成23年6月9日
直方県土整備事務所	平成23年5月31日～平成23年6月2日
京築県土整備事務所	平成23年5月31日～平成23年6月2日
朝倉県土整備事務所	平成23年5月31日～平成23年6月2日
八女県土整備事務所	平成23年6月28日～平成23年6月30日
北九州県土整備事務所	平成23年6月20日～平成23年6月23日
田川県土整備事務所	平成23年6月28日～平成23年6月30日
飯塚県土整備事務所	平成23年6月14日～平成23年6月16日
那珂県土整備事務所	平成23年6月20日～平成23年6月22日
五ヶ山ダム建設事務所	平成23年7月6日～平成23年7月7日
伊良原ダム建設事務所	平成23年7月12日～平成23年7月13日
苅田港務所	平成23年7月12日～平成23年7月13日
流域下水道事務所	平成23年7月4日～平成23年7月5日

2 監査の主眼

今回の監査は、財務に関する事務が適正に執行されているか、併せて経済性、効率性及び有効性に考慮して執行されているかに意を用いて実施した。

特に、工事の設計積算については、その経済性を重点事項として監査を行った。

3 監査の範囲等

(1) 財務に関する事務の監査の範囲

ア 収入

県土整備費負担金、県土整備使用料、県土整備手数料及び県土整備受託事業収入等の調定及び収入事務

イ 支出

賃金、報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料等の支出事務

ウ 人件費

報酬、通勤手当の認定及び支給事務

エ 契約

契約の締結及び履行確認事務

オ 公有財産

- 土地、建物、工作物、樹木等の管理状況
- カ 物品
  - 取得、管理及び処分の状況
- キ 工事
  - 設計積算及び施工並びに契約変更の状況
- ク 用地
  - 設計積算及び履行確認検査等の状況

(2) 重点事項の監査の範囲等

ア 監査対象機関

県土整備事務所等 15 機関

イ 監査の視点

- (ア) 再生資源（再生砕石等）を使用して、経済的な設計積算が行われているか
- (イ) 現場打コンクリート工事と二次製品の経済性比較がなされているか
- (ウ) 他工事と連携した工事の実施について検討がなされているか
- (エ) 新技術の積極的活用による工事費の低減が検討されているか
- (オ) 計画的及び合理的な設計が検討されているか

第2 監査の結果

今回の監査の結果、下記事項を除き、調査した範囲において適正に執行されていた。

1 財務に関する事務

- (1) 指摘事項（是正又は改善を要し、適正又は妥当性を欠くもの）
  - 該当なし
- (2) 注意事項（指摘のうち、軽微なもの）
  - 注意事項に該当するものは、次のとおりである。

区分	件数	内 容
収 入	1	県の使用料において、占用期間の算定が適正でないものが見受けられた。
収 入	1	県の負担金収入において、調定が速やかに行われていないものが見受けられた。
収 入	3	県領収証紙において、申請時に消印が漏れていたものが見受けられた。
工 事	9	予定価格の算出に係る積算事務において、一部で適正でないものが見受けられた。
	2	工事に係る積算事務において、一部で適正でないものが見受けられた。
計	16	

2 重点事項

監査対象工事 6,353 件のうち 211 件（抽出率 3.3%）について抽出調査を行った。

- (1) 再生資源の使用については、経済性を考慮した設計積算が適正に行われていた。

- (2) 二次製品の使用については、2機関において2件で経済性比較が不十分なものが見受けられ、そのいずれも二次製品（U字側溝）は使用されているものの、長さが2mのU字側溝を使用した方が施工単価が安価であったが、0.6mで設計したものであり、経済性を考慮した積算ではなかった。
- (3) 他工事との連携については27件で実施され、経済性を考慮した設計となっていた。
- (4) 新技術の活用については20件で採用され、工事費の低減を図るよう設計されていた。
- (5) 計画的及び合理的な設計の検討については、二次製品の使用状況で経済性を考慮した設計ではなかった2件は合理的な設計もなされていないとした。

監査の 視点	再生資源 の使用		二次製品 の使用		他工事 との連携		新技術 の活用		計画的・ 合理的設計	
	適	否	適	否	有	否	有	否	適	否
監査結果 (件数)	211	0	209	2	27	0	20	0	209	2

今後とも、工事の設計積算を行うにあたっては十分な経済性の比較を行うことにより工事費の低減に努めることが望まれる。

